

平成30年度第6回協働支援会議

平成30年7月20日（金）午前10時30分

本庁舎6階 第4委員会室

出席者：久塚委員、宇都木委員、関口委員、及川委員、土屋委員、石橋委員、伊藤委員、
吉田委員、平井委員、加賀美委員、松田委員、高橋委員

事務局：地域コミュニティ課長、神原主査、丹野主任、松永主事

久塚座長 定足数は足りています。では、事務局のほうから資料を含めた確認をさせていただきますので、お願いいたします。

事務局 では、本日の資料の確認をさせていただきます。

まず、一番上が第6回協働支援会議（第2回協働事業評価会）と書いてあるものです。本日の次第でございます。

次に、資料1が協働事業評価点数表です。こちらは委員の皆様よりご提出いただいた評価のうち点数部分だけを抜き出して一覧表としたものです。右側に各委員の点数ということでご提出いただいた点数を入れています。また、一番右端に平均点を入れておりますので、点数の審議の際の参考としていただければと思います。

この後、点数についてご審議いただきまして、左側の各評価指標の欄に確定した点数の部分の皆様で丸をつけていっていただければと思います。

1-①が防災、1-②がごっくんとそれぞれでございます。

資料2は、協働事業評価書でございます。こちらはご提出いただいた評価のうちコメント部分を抜き出し、事務局で集約整理した資料になります。

資料3は、協働事業評価基準です。

資料4は、平成30年度新宿区協働事業報告書（案）です。

本日と次回の会議で点数、コメント、その他部分を決定し、最終的にはこちらの案のような形で報告書として次々回の会議で区長に提出いたします。

資料の確認は以上です。不足等、大丈夫でしょうか。

久塚座長 大きな議事は、資料1-①、1-②を使って何点をつけるかという結論を出していくというのが一つ目。2-①、2-②を使って、委員の方たちからいただいたコメ

ントを事務局がまとめたものを読みますので、それについて最終的には次の会議で結論を得るのですけれども、きょうは2団体について、それを全部口頭で読み上げる中のご意見をいただくということをする。それを参考にして、次回文章化したものをご提出させていただきますという進め方になります。

では、資料はそろっていますね。では、まず4、3、2、1、0、その他ということでつけてある地域防災の担い手育成事業のほうから。

では、計画、実施、結果、改善という大きなものの中で、それぞれ1、2、3、4というふうにあります。まず第1番目の項目についてですけれども、平均点が2.7というふうになっておりますけれども、これを例えば3にするというようなことで決めていけばよろしいですかね。

では、そんなに時間がこちらのほうはかからないと思いますので、座長のほうで平均点を踏まえた点数を発言しますので、それについて了解が得られるかどうかという進め方をしていきたいと思います。

最初の項目2.7については3としますというのが案です。よろしいですか。

各委員 はい。

久塚座長 3.1を3といたします。3を3といたします。4番目です。2.9を3といたします。3.1を3といたします。それから、2.9を3。3を3。今までずっと3が続いております。2.9、3。2.8、3。2.9、3。2.6、3。2.8、3。2.8、3。2.6、3。2.7、3。2.5、3。全部3に丸印をつけてください。総合3.9でB。

1団体目、地域防災についてはそれを案としたいのですが、よろしいですか。

各委員 はい。

宇都木委員 参加者数がふえているというのが評価なのだけれども、ああいう大きな会場でイベントをやると、きょうはこういうイベントをやるからということ意識して参加する人たちと、それからあそこにふらっと来たら何かやっているからちょっと顔をのぞいてみようかという消極的参加と両方いると思います。こういう参加者を押しなべて全部、3,000人参加しましたというのでいいのかどうかというのは、それはどういうふうにと考えると一番いいのでしょうか。担当課のほうはどういうふうな考えなのか。

久塚座長 たまたま通った人でも気持ちは積極的かもしれないし、深掘りするとなかなか難しい議題なので、先に進めさせてください

今度はどうかな。ごっくんリーダーのほうですけれども、2. 2、3、3、3、3、3、3、2. 7のところまで3です。2、2、2、2、2. 3の一つ目のところまで2です。2. 3、2. 4、2. 3、2. 4、2. 3、2です。3. 3、Cということでもよろしいですか。

各委員 はい。

事務局 座長、1点だけ事務局で気になるところがあるのですが。

ごっくんのほうなのですけれども、1番の計画というのが、この三つで一つのカテゴリになるのですけれども、個別の①、②が2という評価で、計画の総合評価が3になってしまうので、ここだけちょっと気になります。

宇都木委員 相対としては3で、コース以外にやや問題ありとそう評価したから。

久塚座長 これはしかし点数を、計画の評価というところで求めているので3にして、それで個別の①、②のところ、反映しているかのところでこういう形なので2なのだけれども、3に近いみたいな評価だと思うのです。これを入れると2. 4を3にして、計画の評価が3にしないとまずいのではないかみたいな議論に入ってしまうので、これはこれでいいのではないですか。

事務局 よろしいですか。わかりました。

及川委員 防災なのですけれども、これで行くということは個人的にも賛成はしているのですけれども、2番は数値からすると3でいいかななんていう気もしたのですが。

久塚座長 これも平均点はこうなのですけれども、以前のことから見ても2がこれだけあって、4がこれだけあってという形なので、これも平均点が下がっても多分3に出たものだと思います。

これが例えば4がこの数で、3が一つか二つで2が多いとか、逆に2が少なくてということであれば、平均点に多分出てくるような数字なので、数から見たときも余り気にしなくていい形になっているのだと思います。それが4と1で平均点が3になったとか2. 6になったとかというようなときは大議論になってくる。それに近くなるのですけれども、なだらかにこうなっているので大丈夫だと思いますけれども。もちろん今及川さんの発言にあったように単純に平均点だけで考えるのではなくて、中の分布もという。

及川委員 さっきの議論からちょっと離れてしまいますけれども、やっぱりあれだけ規模が多くて、大きくできてうまくいっているのが適切であるというような。数からいうと妥当なのですけれども、すぐれているをつけている方が人数で言うところが一番多いです、

例えば2の③。そういうつけ方をして、次に事業者が申し込むときにどれぐらいやって、また適切であるになるのかなというのもちよっと念頭に置き入れながら、今後考えていてもいいかなというのはちよっと思いました。

久塚座長 これ、難しいと言えれば難しいのですけれども、やっぱり点数を出した人がどういうことでドワッと分かれていると考えなければいけないということだろうと思えますけれども。

及川委員 わかりました、ありがとうございます。

久塚座長 先ほど宇都木さんがおっしゃった件ですが、評価の中でたくさんの方が来られるようなイベントも催している中で参加者数というのは、どういう形で見るといいかというような難しい質問なのですけれども、何かご発言がありますか。

松田委員 イベントで見るとは皆さん、数的にはもう本当に大勢来ていただいているというところで、楽しんでやれているので問題ないのではないかという印象を持っています。

久塚座長 宇都木さんとしては参加者数であるとか、アンケートの数というのをどういうふうに評価するのかなというようにも考えたほうがいいのではないかというご発言ということでよろしいですか。

宇都木委員 はい。考え過ぎかもしれないけれども、防災はそれぞれの区民生活の中にどう定着するかという問題だから、イベントで大勢何かいろんな人たちが来て、たくさんいたからそれでよかったかというのは、それはそのイベントとしての評価はそれでいいとしても、本来の趣旨にある防災意識をどうやって区民一人一人の生活の中に浸透させていくかというのとどの程度マッチするのか、それが役に立っているのかという評価は、いずれ出てくると思うのです。

例えばこれ、3年過ぎた後にも続くわけですから。そうするとそのイベントというのの位置づけというのをどういうふうに考えるかというのは、ああいう大きな建物、大きな広場でやっているから、いろんな人たちを巻き込むから3,000人参加したという評価かもしれないけれども、そこはやっぱりどういうふうに考えるかというのは多少やっぱり考えたほうが。後々あれだけ評価したのに、実際の今度は区民生活一人一人に生活の場でアンケートをとってみたら余り浸透していなかったという話になるとギャップが出てしまって、評価したことがどういう意味かというのが後で問われるのではないかという気がするのです。

そこは少しやる側としては、NPOのほうもそうだし、行政のほうもだし、ちょっと頭の中に入れて、これからのことを考えたほうがいいのではないかなという気がするのです。

久塚座長 行政のほうからすると、こちらはそういう数値は出すけれどもということだと思うのです。この委員会でどういうものをどう評価するのかということを決めるということの話なので、そういう例えば人数なら人数というのをどう読むかとか、どこでやったのをどう読むかという基準についてここで、この事業の中で決めていくという話だと思うので、おたくの部署が、あるいはあそこのNPOがどういうやり方をやっているからどうこうということ批判しているわけではないですから。

それをどういうものとして私たちが受けとめて評価するのかという課題があるねというお話だと思います。

関口委員 宇都木さんの言うことは、もっと予算があれば、手間暇かけてやれば当然できるのに決まっているのですけれども、一人一人の行動変容を質問紙法か作業観察法かしっかり把握して、それはもちろん今330万のフレームをもっと500万とか1,000万にすれば丁寧に観察して評価できるということだけれども、それは限られた予算と人員の中でやるわけだから、それはその評価とか観察、測定のほうにお金をかけるべきなのか、あるいはもっとイベント自体のクオリティを高めたり、来場者数がふえるほうに予算を使うべきなのかというのは、それはよくよく考えたほうが良いと思います。

余りその測定を精緻にやっていくことに金をかけてしまって、肝心の中身が変なものになってしまうというのも変な話だと私は思いますけれども。

久塚座長 委員会として、委員として評価する際に、防災だけではないです。実際の生活、あるいは日常生活の中でそれがどう浸透し、効果があることになっていくのかというようなことを評価の中に入れて評価をしようということだと思います。

伊藤委員 採点以外にもできるのは、アンケートをかなり今回は集められたのですけれども、それに新宿区民、イエス、ノー。新宿区民の中にこのイベントを何かで知ってきたか、通りがかったので寄ったとか、それだけ入れてもらえば少しは区民のこのイベントに対する意識が読めるのではないかなというようなことを私も考えていました。

久塚座長 と同時に意識だけではなくて、参加した後どういうふう浸透していくかということが大事なので。

そここのところをまず。ただ、限られた時間の中でそれをやると、ほかの仕事ができなくなってしまいうので難しいのだとは思いますがけれども、そういうことを考えていくことも大

事でしょう。

石橋委員 先ほども土屋委員と少し地区協の話をして、地区でも活動が全然違いますねという話をしています、そういう意味ではコミュニケーションが活発な地区もあるが、そうでない地区もあり、また別に伊藤委員とお話ししていたら、場所によってビルに近いところか、住宅街ばかりのところでも防災に対する動きというのも違ってくると思うので、そういう意味では大きなイベント一つというよりも、せめてもう一段、落として地区ごとのということ。

今回はいいとしても、今後ということでは、規模を小さくして、地区ごとに合った活動というのでも検討していく必要があるかなというのを、何か今伊藤委員がおっしゃったみたいに参加者がどうしても新宿区ということではいろんなところから来られると思うのです。

そういう意味では参加者何千人という中でも実際に新宿区の税を使っている中で、そうじゃない方がたくさんとかなると、やっぱりより住民に対して有効な活用というのでも今後検討していただく計画を求めたいと思います。

久塚座長 そうですね。ただ、逆に言うと大変なのは、ご存じのように住民票を持っていなくて新宿区にいる人はわんさかいる中で大災害は起こるわけです。そういう意味で言うとイベントも新宿区民でない方が来られるということもそういう区なのです。そこを通りすぎる人がたくさんいる。

だから、そのような中で予期しないことが起こるとするのは災害もそうだし、イベントも予期しないことが起こっているということです。だから、どう浸透させるのかというのは非常に難しい事業だったのです。それを踏まえて今後どういうふうに、事業が終わったときにどこまで達成したということが、あるいは課題が何か残っているということが認識できるものを書いていただければ、次のステップに行けると思うのです。

平井委員 ちょっといいですか。もともとこの事業というときに、大もとは一般の日ごろ防災に接しない人たち、あるいは外国人。そういった人たちにとりあえず今回は関心を持ってもらおう、意識を持ってもらおうというところからきた経緯もありますので。そうは言っても、ではその来た人たちが、そういうイベントに参加してどういう関心を持って、どういう行動に移るのかなというところは、やはりちょっとアンケートでとるのは難しいかもしれませんけれども、何らかの形で効果測定をやりたいと思います。

やはり一番最初の入り口のところが、これはともかくイベントをやって、みんなに来てもらうというところから始まったところもありますので、ちょっとそこら辺は皆さんにご

注意して。日ごろ、余り皆さん関心はないですから。自分は大丈夫だと思っている。そうではないのだと。そこをまず関心を持ってもらうという入り口の部分から始めたという経緯があります。そこは少しそういったところも大事にしていきたい。

及川委員 もともと課題の設定というか、目的の設定のところを広めることだということはこの委員の中で周知されていれば、これはもうある程度広まっているということになるのではないかと思うのです。だけれども、真の防災力をつけていって、実際に活動ができるようにまで持っていくということを目的化して考えていたのであれば、当然それが低くなっている。

ということで、やはり今後審査するに当たっても、まずここは目的、目標をどこに持っているのかというのをよくよく資料の中で読み込んだ上で評価していくことが大事なのかなと思いました。まずぶれてきます、この最初の目的に対してどこまでを評価しなければいけないのかというのが。そこをしっかりと委員の中で私を含めて読み込んでいかないと、最後の評価するときにはやっぱりこれ、先ほどの総合政策部長さんの意見からすると完全にこれはすぐれているのではないかと思うのです。ただ実際の力となると。

久塚座長 関口さんも発言があったのですが、実際のところで区民がそういう意識までなって、ある程度災害のようなことが起こったとしてもパーフェクトで大丈夫だったみたいなことというのは、3億円ぐらいかけたら何かできるかもしれませんが、300万ではできないです。

やっぱりできることは、何かこういうイベントをしたりする中で自分で学んでいただく、自立していただくとか、防災に自分で関心を持っていただく。強制するのではなくて自発的にそうなっていくような仕組みをつくるということ以上のことは、なかなかやりにくいということなのです。

さっき発言があったみたいに小さいところをポイント、ポイントというのものもあるし、あるいは大きく集まりやすいところに集まっていたらというのものもあるでしょう。なので、これはもう動き出したところなので、継続していく中で見えてきた課題というのが委員会の中で発言があったと思いますから、それを踏まえて次の展開をしていただくということが大事だろうと思います。そこでとどめておきたいと。

そういった課題はこの1個目と2個目のコメントのまとめの中で出てくることだと思いますから、そちらに移りたいのですけれどもよろしいでしょうか。

では、コメントのまとめを含めて各委員のコメントとコメントのまとめというのがお手

元にあります。地域防災の担い手育成事業のほうからお願いいたします。

事務局 先ほど評価点を決定していただきましたが、コメントの検討に移らせていただきます。資料2をごらんください。資料2が委員の皆様からのコメントを事務局で取りまとめたものです。左側が各委員のコメント、右側がそれを集約したコメント案となっています。集約の際には委員から比較的多く寄せられたものを中心に、全体の整合性を見ながらまとめております。よい評価はオレンジ、課題や努力が必要という評価は青色で参考に塗り分けさせていただきました。また、昨年度の報告書とほぼ同様の表現としている部分は赤字にしております。

こちら事前送付しております、会議の時間の関係もございますので、詳しい説明は省略し、この後コメント案の部分を読み上げのみさせていただきたいと思います。本日はこちらに対してご意見をちょうだいしたいと思います。もしご意見等をいただいた場合には、次回の8月3日の金曜の会議で本日のご意見をもとに修正したものを再度提示させていただき、次回の会議で確定とさせていただきたいと思っております。

よろしければ防災のほうから読み上げさせていただきたいと思います。

資料2-①の防災の1番の計画です。「各年度ごとのテーマを設定して事業を実施されており、実施2年目である昨年度は障がい者等の要配慮者への支援のあり方や仕組みを検討し、各種防災減災プログラムを実施しています。3カ年の期間を有効に活用して、課題解決に向けてさまざまな層を対象としたテーマを設定している点が評価できます。

成果目標としてイベントへの参加者数やボランティアの従事者数を設定しており、客観的で達成度を把握できる目標を設定しているものと評価します。また、事業を実施する中でイベントの参加者数を上方修正するなど柔軟に目標を設定している点も評価できます。さらに、この目標を上回る実績を上げており、幅広い層の区民へ防災意識が浸透しつつあると評価します。

若い世代、家族に防災意識が浸透していないことから取り組まれた本事業ですが、回を重ねて対象を広げ工夫をしていくことで参加者も増加し、広く防災意識が浸透しています。また、前年度評価で課題とされたこの事業がどれほど地域防災力の向上に寄与しているかを確認するための指標の設定についても、アンケート項目の工夫や回収率向上を図っており、これまでの指摘に柔軟に対応しています。

3年目になりますので、今後の方向性についての検討も必要です。育成したボランティアのイベント以外の活動の場の提供や、イベントにより防災に関心を持った人たち、防災

意識が高まった人たちへの引き続きの支援について今後の方向性が検討されることを期待しています。」

1枚おめくりいただきまして2の実施です。「事業の実施については、イベント事業・担い手育成事業ともに年間スケジュールに沿って着実に実施することができています。団体と区担当課において、定期的な打ち合わせとともに積極的に電話もメールを活用した情報共有が行われ、十分な意見交換を行いながら、順調に事業が実施されているものと評価します。

区は事業の企画やネットワークの活用、スタッフとしてのイベント参加等、事業の成功に向けた積極的な姿勢が見られます。団体も、ボランティアの募集や育成等、事業者の持つ強みを生かしており、適切に役割を分担しながら事業を実施しています。さらに、各分野で専門性を持つ企業やNPO等が実行委員会のメンバーとして参加しており、多様な主体がおのおのの強みを生かしながら、役割を担っている点も評価できます。

昨年度は要配慮者支援のテーマに沿って、福祉部門の関係者や障がい者、支援団体による分科会を設置しており、活動の輪と参加団体の広がりにより、協働の効果を発揮した事業となっています。

今後も適切な役割分担のもと、情報共有に努め、多様な主体との連携の中で、それぞれの強みを生かした事業の実施により防災対策が区民生活に定着することを期待しています。」

続きまして、3番の結果です。「イベントの参加者数は、前年度実績を踏まえて計画時の目標を上方修正していますが、さらにその目標を上回る参加者数となっており、多くの区民に対して防災意識を高めるきっかけづくりができているものと評価します。

受益者の意見集約については、前年度評価を踏まえて、回答者への飲料の提供により、イベントでのアンケート回収数を大幅にふやし、多くの区民ニーズを事業に反映させることができた」と評価します。

アンケート結果でも9割の方が「参考になった」と回答しており、区民の防災意識の向上を図られるなど、ねらいどおりの効果が生まれていると評価します。また、本事業を通じて培われた参加団体同士のネットワークは、発災時に非常に有効なものになると考えます。

今後は、育成したボランティアのフォローアップや、町会・防災区民組織との連携等による地域への還元、地域社会への広がりという点も検討しながら実施することが必要です。

本事業をきっかけとして、防災に対する区民の関心や意識の向上が「日常の取り組み」として定着し、区民や地域社会へのさらなる波及効果につながることを期待しています。」

続きまして、4番の改善です。「事業実施に伴い発生した課題については、区と団体で分析・共有され、適切に把握できています。土・日に就労している外国人や1人で外出が困難な方への対応の検討や、実行委員会参加団体が当日にイベントに参加できない点など、イベントに参加できない方への対応や参加団体の声をくみ取る努力がされており、把握した課題についても柔軟かつ効果的に改善策が検討されていると、評価できます。

定期的な意見交換に加え、イベント実施後速やかに振り返りを行い、課題や問題点の把握を行うことで翌年度の計画に反映させている点も評価できます。

実施3年目となり、協働事業としての実施期間終了後の展開も課題となります。これまでの指摘事項への速やかな対応や自己財源の確保や協賛者・出展者の獲得、区内各団体の巻き込みなど、さまざまな努力が見られますが、引き続き協働事業の期間終了後の展開を見据えた課題の把握に努めていただき、区と団体で解決策を協議し、より有効な事業展開がされていくことを期待します。」

最後に、総合評価の部分を読み上げさせていただきます。「近い将来に発生が予想されている首都直下地震等の災害への対応は重要かつ急務である一方で、防災・減災意識の向上は容易ではなく、区民の防災意識の低下等が課題となっています。そうした中で、本事業は魅力的な企画で3,000人を超えるイベント来場者を達成し、参加者からも好評を得ており、着実に成果を上げています。

事業の計画については、新宿区の特性を踏まえた上で計画が立てられており、各年度ごとにテーマを設定することで、3カ年の期間を有効に活用して、成果を上げている点が評価できます。効果・成果を確認するための手法についても、改善を加えながら適切に設定されています。

事業の実施についても、年間スケジュールに沿って着実に実施されています。区と団体の適切な役割分担と情報共有が行われているほか、企業やNPO等が実行委員会のメンバーとして参加しており、多様な主体がおのおのの強みを生かしながら、効果的に事業が実施されているものと評価します。特に、在住外国人や災害時要配慮者等を交えて企画づくりが行われており、当事者の意見を大切にしながら事業が実施されているものと評価できます。

事業の結果については、計画時の参加者数の目標を上方修正した上で、さらにその目標

を達成しており、「楽しく学べる防災イベント」として多くの区民の参加を得られたものと評価できます。アンケート結果も良好で、区民の防災意識の向上というねらいどおりの結果が見られていると評価します。また、本事業を通じて培われた各団体のネットワークや、地域の担い手育成の方向性と課題解決の糸口を見出すことができたことは、本事業の大きな成果です。今後は、本事業で育成したボランティアが地域で活動するためのフォローアップや、町会・自治会の避難所設営訓練との連携等、地域社会への広がりという点も検討していただきたいと思います。

事業の改善については、区と団体で発生した課題を分析・共有し、把握した課題に対して柔軟かつ効果的な改善策が実施されていると、評価できます。

本事業がモデルとなり、ほかの自治体でも同様のイベントが開催されたり、本事業への参加をきっかけとして区内の関係団体のネットワークが深まるなど、波及効果が広がっています。この事業が一過性のものでなく、事業を通して培った人と人とのきずな、ネットワークを大切にしながらさらに発展し、今回の取り組みを契機に区民一人一人が防災への関心を高め、地域で防災活動に取り組む人材を育成し、地域防災力向上・発展に寄与することを期待しています。」

防災は以上です。

久塚座長 1個1個やっていくとあれなので、二つともまずは事務局に説明してもらいましょう。それについて後からご意見をいただくという形で進めたいと思います。

では、二つ目をお願いします、読み上げてください。

事務局 では、ごっくんリーダーのほうを読ませていただきます。1番の計画なのですけれども、ちょっとこの項目について補足なのですが、委員コメントの中で1年目終了時点では一部計画の遅延が見られたというものがございました。この点について、本事業は昨年度の評価実施時点では確かに一部進捗におくれが見られましたが、その後おくれを取り戻し、1年目の終了時点では当初計画した目標を達成しております。

そのため評価コメントにつきましても、そのような見地から案を作成させていただいております。その点ご理解いただければと思います。

では、読み上げます。「成果目標として、リーダーの育成数や普及啓発イベントの開催回数、DVDの製作やその作成枚数等を設定しており、明確な目標を立てて事業が実施されています。

また、前年度評価で課題とされた、事業評価を確認するための指標については、事業参

加者への満足度調査やイベント実施後の追跡調査により、嚥下機能への意識変化や口腔機能の改善状況の確認を行うなど、アウトカム指標の設定が行われており、課題に柔軟に対応しながら事業実施されています。

本事業は地域の核となる人材「リーダー」を育成し、高リスク者の発見や周囲の気づきにつながる知識、予防策等を普及啓発していくことを目指しています。この点を踏まえ、今後の事業計画においては、育成の進むごっこリーダーの地域での活動状況や、完成したDVDの活用方法等をより具体的にした計画づくりが必要と考えます。」

1枚おめくりいただきまして2番の実施を読み上げさせていただきます。「前年度評価時点では、計画したスケジュールに対して進捗のおくれが見られましたが、進捗の見直しと、区と団体双方の努力によりおくれを取り戻し、計画どおりの内容が実施できています。

意見交換や情報共有については、プロジェクト推進会議や定期的な打ち合わせ、電話等によるコミュニケーションが図られており、対等な立場で意見交換に努めていると考えます。お互いの得意分野や不得意分野も話し合いを行うなど、情報の共有に努めていると評価します。

また、事業の実施においては、適切な役割分担のもと、区のネットワークや団体の人脈を生かし、医療機関等の関連各機関との協力を得るなど、互いの強みを生かした事業の実施がなされています。成果物であるごっこ体操のDVDの作成は、作成スケジュールにおくれが生じたものの、専門家や地域で活動する方々等多くの人たちが携わり、完成度の高いものとなっています。多くの関係者と協働の効果を発揮しながら事業が実施されているものと評価します。

CD化も検討される等、事業実施におけるツールづくりが進んでいますが、今後はそれらをどのように活用してリーダーを育成と普及啓発活動を進めていくのか、具体的な方策の検討が必要です。引き続き、計画に沿った進捗管理のもと、目標に対する成果を意識した、具体的なアプローチがなされることを期待します。」

続きまして、3番の結果です。この項目についても1点補足なのですが、DVDの製作におくれが出たという点につきましては、この項目ではなく、先ほど読み上げさせていただいた2番の実施のほうに入れさせていただいております。

では、読み上げさせていただきます。「当初設定された指標については達成されており、イベントの参加者数等の一部指標については、目標を大きく上回る成果が得られている点は評価できます。

作成したDVDは、親しみやすい区内の地名や旧跡を歌詞に取り入れ、歌いやすく受け入れやすいものとするなど、区と団体双方の創意工夫が見られる完成度の高い内容となっています。受益者となる高齢者に丁寧にヒアリングしながら歌詞や動作を作成しており、受益者意見を大切にしながら作成されています。

イベントの満足度や口腔機能の意識調査等、幅広い設問に基づくアンケートや、イベント実施後の追跡調査を実施しており、丁寧な意見集約を行っているものと評価します。

地域の施設を利用して活動している既存のグループとの連携を図り、「ごっくん体操」を日常の活動や地域行事に取り入れていく働きかけをしていることで、イベントの参加者数も多く、アンケート結果の満足度も高いものとなっています。体操の普及や指導の依頼も多く寄せられ、DVDも配布が進んでおり、成果を上げつつあると評価します。

今後は、完成したDVDの活用方法や、モデル地域以外への展開、育成した「ごっくんリーダー」が地域で活動し続けるためのサポートについて十分な検討が必要です。」

1枚おめくりいただきまして4番の改善です。「課題の共有や解決に向けた話し合いを行いながら実施されています。ごっくん体操の普及において、DVDの作成のみにとどまらず、より効果的に事業を実施するために、CD化を検討するなど、活動の中でとらえた課題に対して、その都度柔軟に改善策を検討する姿勢が見られます。

今後は、モデル地域からの展開方法や、育成した「ごっくんリーダー」の自主的な活動のサポート方法など、活動の全区的な展開を実現するための具体的な方策の検討が必要です。普及に向けたツールは完成したので、それを活用し、どのように広げ定着していくのが課題です。団体の強みを生かして、活動の場や対象者が拡大するなどの取り組みを期待します。

また、実施2年目ということで、事業の折り返し地点となりますので、協働事業としての実施期間が終了した後の展開も考慮しながら、引き続き受益者の意見分析と、課題の改善への取り組みを期待しています。既存の高齢者の健康づくり施策の中でどのように位置づけて進めていくのか、具体的な検討が必要です。」

最後に、総合評価を読み上げさせていただきます。「加齢とともに衰えがちである一方、人間が生きる上で欠かすことのできない「食べる力」の維持・向上に着目した本事業は、高齢者のQOLや健康寿命の向上にも貢献する重要な事業となっています。

事業の計画については、普及啓発イベントの開催回数等、明確な目標を立てて事業が実施されています。また、前年度評価で課題とされた、事業効果を確認するための指標につ

いては、アウトカム指標を作成するなど、課題に柔軟に対応しています。

前年度の評価時点では、計画したスケジュールのおくれが見られましたが、区と団体双方の努力によって現在は、計画どおりの内容が実施できています。普及ツールである「ごっくん体操」は新宿区らしい歌詞を盛り込むなど、工夫を図りながら作成されており、評価できます。団体の有する専門性や人的ネットワークが発揮され、専門家や地域で活動する方々を巻き込み、十分に検討を重ねながら普及ツールの作成に取り組んだ結果、体操普及・指導等の依頼が多く寄せられ、DVDの配布も順調に進んでいるなど、成果を上げつつあると評価します。CD化も検討されるなど、普及啓発に向けて区と団体の積極的な姿勢が見られます。

事業の結果については、当初設定された目標を大きく上回る成果が得られているものもあり、評価できます。地域の施設を利用して活動している既存のグループとの連携を図り、「ごっくん体操」を日常の活動や地域行事に取り入れていく働きかけをしていることで、イベントの参加者数が多く、アンケート結果の満足度も高いものとなっています。

区と担当課が密にコミュニケーションをとり、課題の共有や解決に向けた話し合いが行われています。把握した課題に対しても、その都度柔軟に改善策を検討する姿勢が見られ、評価できます。

今後は、完成した普及ツールを活用したリーダーの育成・定着・拡大等の段階となります。地域人材の発掘やノウハウの継承が重要であるため、モデル地区から全区的にどう展開していくのかという点や、育成した「ごっくんリーダー」のフォローアップの方策について、具体的な検討が必要です。

本事業が一過性のものとして終わらないよう、ヒアリングでの指摘等も踏まえ、区・団体ともに一層の工夫と取り組みに期待します。」

以上です。

久塚座長　ということで、それぞれの委員の方からいただいたものを基本的にはベースとして、ご意見を具体的に反映させる形で一つ目、二つ目を見事にまとめていただきました。そのベースにあるのは、それぞれの委員の方がめり張りのあるご意見を書いていたということから、事務局はまとめやすかったということもあるのでしょうかけれども、一部分だけを都合よくとるということをせずに、全部埋め込む形で評価できるところ、あるいは事実の経緯、あるいは今後の課題というのをまとめていただきました。

今からの時間は一つ目、二つ目をベースに、コメントのまとめのところにこういう形に

して欲しい、あるいはここが不十分ではないかというようなことを発言していただきたいのですけれども、きょうはそれをめぐって議論ではなくて、それをお聞きして、次回に原案を出すという形でよろしいですね。

事務局 そうですね、本日はご意見をいただくということで。

久塚座長 では、一つ目、二つ目ということで結構ですので、どの評価のどのような点とか、結果のどのような点とかいうことを指摘して、事務局のほうで指摘が、ご意見が、中身がわかるようなご発言というふうにさせていただきたいと思います。

では、どの委員の方からでも順は問いませんので、ございますでしょうか。

特にない？

関口委員 いいのではないですか。

伊藤委員 うまくまとめられている。例えばごつくんリーダーのところ、結果だとか実施だとかにあるコメントをうまく盛って、総合コメントに持ってきたりだとか、かなり工夫されているのでご苦労さまでした。

平井委員 まとまっていると思います。あとちょっと文言の部分が気になるので事務局と相談します。

久塚座長 誤字、脱字を含めてもしあれば文言のところ事務局に伝えて下さい。それでは大きな修正はないようなので次のほうに移っていきたいのですがよろしいでしょうか。

各委員 はい。

久塚座長 では、二つ目の議題をお願いします。

事務局 では、続きまして、資料4を使って評価書の構成についてをお諮りしたいと思います。資料4をごらんください。

現在この評価会で進めている第三者評価については、協働事業評価報告書にまとめ、9月10日に区長へ報告いたします。

昨年度までの報告書をベースとして事務局で報告書案を作成しました。資料4をもとに順番に簡単に各ページをご説明したいと思います。

まず、資料4の表紙がございまして、こちらは本年度から協働支援会議で評価を実施することとなりましたので、下の部分は新宿区協働支援会議としております。

以下、中身の部分についても、これまで評価会や会長等と表現していた部分は支援会議、座長と修正しております。

1枚おめくりいただきまして目次になっています。報告書の内容の項目の構成は、従来

から変更はございません。

1枚おめくりいただいた右側の1ページが委員名簿です。

1枚おめくりください。こちら2ページが評価を終えてというページなのですが、網かけの部分については座長のお言葉の部分になりますので、座長とご相談の上、この部分は決定させていただき、皆様には次回の会議でお諮りしたいと思います。

現状は古いものがそのまま入っております。また、今年度から区の新たな総合計画が始まったことや、昨年協働事業提案制度の見直しを行ったことにより、網かけの部分以外の表現もそちらの見直しなどの内容に合わせて若干修正しております。

続きまして、3ページ目です。評価の対象事業名をことしの状況に合わせて修正したほか、評価基準の部分は昨年の協働事業提案制度の見直しを反映した表現としています。また、評価の基礎資料の一つとしてこれまで事前確認書という書類がございましたが、こちらは今年度から廃止となりましたので、評価の概要の文章からも除き、巻末の資料編からもとっております。

評価の目的は昨年度分と変更はございません。

1ページおめくりいただきまして4ページです。こちら昨年度の協働事業提案制度の見直しを反映した表現となっております。右側の5ページですが、こちらも見直し後の評価基準を掲載しております。

1ページおめくりいただきまして6ページです。こちら評価の対象ということで、対象事業、対象期間、評価の実施経過等をことしの状況に合わせて記載しております。右側の5ページと次の6ページは対象事業の概要のページになります。こちら昨年度の見直しで項目を事業目的・概要、地域課題・社会的課題、目標・成果の3点とすることになりましたのでヒアリング時の資料等をもとに各項目についてまとめております。

1枚おめくりいただきまして8ページがごっくんの事業概要になっておりまして、右側の9ページ以降からですが、ここからが評価の結果が入るページとなっております。こちら本日の会議前の時点での平均点ですとか事務局のコメント案をそのままイメージとして入れさせていただいております。

最後に、18ページ目以降が資料編となっております。自己点検シート、相互検証シートの様式のほか本日の案にはつけておりませんが、完成版には各事業のヒアリング時の提出資料も掲載されます。

以上が報告書の構成になります。

久塚座長 ありがとうございます。構成についてはよろしいですか。私を書く部分についての網かけの部分、あるいはきょうご審議いただいて点数を入れた部分など、まだ仮のものが入っていますけれども、そのほか文言については後ほど事務局のほうにということのもあろうかと思えますけれども、それをベースにつくり上げたものを次回皆さん方でご検討いただくというのがこの様式です。では、様式についてはよろしいですね。

各委員 はい。

久塚座長 では、この形で行きます。事務局は続きの説明をお願いします。

事務局 では、最後に次回の会議の開催についてご説明します。次回の会議は8月3日金曜日です。通知を紙で机上配付させていただきましたので、そちらもご確認ください。当日は、本日の評価の続きを隣の第3委員会室で開催いたします。コメント案等については軽微な修正のみということでしたので、そちらを取りまとめて、次回の会議では報告書の確定ということで行わせて頂きます。

もう1点、事業視察のご案内もさせていただきたいと思えます。地域防災の担い手育成事業のほうなのですけれども、防災フェスタ2018の視察について時間などが決まりましたのでご案内します。

以前、防災事業の視察については、この評価の実施期間に間に合わないため、評価の基礎資料とはしないものの視察自体は行わせていただき、また出席いただいた委員には謝礼もお支払いする予定ですとお伝えしていたのですが、日にちと時間が決まりましたのでお知らせします。

日にちが9月5日の日曜日になります。場所が例年と同じ新宿スポーツセンターで行います。時間なのですけれども、11時から12時を予定しております。イベント自体が11時から16時で開催されますので、最初の1時間の部分ということで予定しております。ですので、当日は11時に新宿スポーツセンターの入り口にご集合いただければと思います。そちらのほうで事務局で出欠をとらせていただきまして、あとは自由に視察をしていただく予定です。

久塚座長 イベントなので日曜日ということですが、もう既に予定が入っているという方はおられると思えますから、可能であるという方は積極的に視察をよろしく願いいたします。

それから、やっぱりさっきご発言があったみたいに事務局が声を出して読んでいて、ちょっと文章がバタツとなったところが二、三カ所あったような気がするので、ひょっとし

たらそういう修正かもしれませんが、それはありましたらそれを手直ししてください。

事務局 わかりました。

久塚座長 もう1回事務局のほうとしても中身が変わるのではなくて、ああ、この表現はここで段落がこの中でガクツとなっているのとかあるかもしれないので。それを目安にして、ほぼ完成していますけれども、皆さん方に提出させていただきたいと思います。

では、これでよろしいですか。

そこできょうの時点ではそこまで積み上げているので、もう1回よいしょというのがない形での修正というか、そういう形にさせていただきたいということです。

事務局 軽微な内容のものということでいいですか。

伊藤委員 そうでしょう、大幅なのはない。

あと一つ、9月4日の第二次選考がなくなったでしょう。時間はそのまま、9時からですか。

事務局 開始時間は変更なしで行きたいと思います。

久塚座長 そのあたり1個なくなると随分楽になる方たちもいるかもしれないけれども、今伊藤さんが発言があったみたいにもう二次があるという予定でみんな入れさせていただいているので、時刻も移動させないし、開催もするというで。

では、長時間ありがとうございました。これで会議を終わります。お疲れさまでした。

事務局 ありがとうございました。

— 了 —